

2018(平成30)年度学校評価計画表

教育目標	愛し愛される学校を目指して ① 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒の育成に努める。 ② 学校生活のみならず、全てのことに全力を尽くす生徒の育成に努める。 ③ 一人一人の心に寄り添い、可能性を最大限に伸ばすための着実な支援により、自立した努力を惜しまない生徒の育成に努める。 ④ 地域の方々と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒の育成に努める。
本年度の学校目標	生徒の夢の実現に向けた102年目の挑戦 ①急速に変化する社会を生き抜くたくましい精神力と体力を備えた、努力を惜しまない生徒を育成する。 ②適切な判断と決断により、勇気をもって自らが積極的に挑戦し、常に高い志をもった生徒を育成する。 ③他者への思いやりをもち、助け合いの心をもつ生徒を育成する。
本年度の重点課題	①6年間(3年間)を見据えた進路指導体制の構築(進学実績の向上・キャリア教育プランの構築) ②クラブ活動のさらなる活性化 ③教職員のスキルアップ(校内研修の充実) ④学内外への情報発信(奈良育英の魅力の効果的な発信)

学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である

年度重点目標				学校自己評価			
部	大目標	目標	具体的な取り組み・実施計画	評価指標	評価	評価の理由	課題及び改善
教務部	学習環境の向上及び情報共有の綿密化	アクティブラーニングの充実	ICT等を取り入れた授業の公開(ICT環境が整うことが前提)	公開授業数			
		学習規律の徹底	①観点別評価導入に向けて準備 ②新学習指導要領について周知	①シラバス公開内容 ②担当者の研修会参加数			
		様々な取り組みの公開及び情報共有	①授業見学週間の充実 ②教科指導改善プレゼンテーション(旧名称:シラバスプレゼンテーション)の充実	授業評価アンケート			
		正確な成績処理	キャンパスプランマニュアルの周知徹底	ミスの数			
進路指導部	希望する進路の「保障」から「保証」へ	数値目標 国公立大学20 難関私立70 中堅私立130	トップ30管理、選抜コース文系の授業改善、国公立大学・難関大学への意識強化、進学補習、模擬試験受験対策・分析、学習合宿、キャリアガイダンス、土曜プログラム、学習環境検討委員会、進路指導部通信での情報提供、自習空間の提供 など	第一志望の実現 大学合格数 模試成績 シラバス数値			
		管理体制の強化	自習室…自習ブース設置、利用状況分析、快適な自習環境の提供(環境委員連携) 朝学習…全クラスの実施状況確認 内容の検証 進学情報…教員対象説明会参加報告、来客対応記録 進路指導部と学年で共有 模試結果分析…各教科・進路指導部 学習環境検討委員会にて共有	自習室利用状況集計 生徒アンケート 各種意識調査 進学情報報告文書 模試結果分析報告 教員向けアンケート			
		広報活動の充実	進路説明会、大学入試センター試験出願説明会、高大連携協定校・指定校説明会、進路指導部通信、土曜プログラム、進路情報誌配付、各種案内チラシ配付、育英会委員会報告 など	学校評価アンケート			
入試広報部	『愛し愛される学校』を具現化するために、ベテラン・中堅の教員と本校に勤務年数が浅い教員の調和のもと中学校募集、高等学校募集などの入試広報イベント、入試広報業務に一元となっており、生徒主体で実施できる行事は生徒を前面に出していく。	高等学校の280名定員確保 クラブ推薦80・推薦70・内部生40 その他90名	塾・中学校訪問の強化 ・専願生の確保 ・特に国際理解コースの魅力・推薦制度のPR強化	入試広報行事参加者数と受験者数の増加			
		中学校の60名定員確保	塾訪問 ・在校生の取り組みを発信する	入試広報行事参加者数と受験者数の増加			
		各種イベントに「クレド理念」を参入	お客様をお迎えする気持ちを大切にする 職員同志のコミュニケーションを強化する	アンケートや来校いただいた方の直接の声			
		本校行事に勧誘・参加してもらうための情報発信	スクールガイド・リフレット・ポスター・HPにおいての広報活動 説明会や個別相談会での丁寧な案内	入試広報行事参加者数			
		内部での入試広報活動の発信を強化	部会や職員会議において、あらゆる情報を発信し、教職員間での情報共有をはかる	密な打ち合わせと情報交換			
生徒指導部	たくましい生徒、高い志をもつ生徒、助け合う心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援 1. 生徒が自ら自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す。 2. 生徒の夢の実現を支援するために、生徒が安心してよりよい学校生活を送れるようにする。 3. 不易と流行を常に意識し、新たな知見を取り入れ、生徒一人一人をしっかり見つめ、生徒のやる気を喚起する。	1-①基本的な生活習慣及び自己規律の確立を図るための取り組みを推進する	・年間遅刻0の生徒の割合が80%となることを目指す ・月間の遅刻率等のデータを公表する ・服装検査当日クリア80%を目指す ・各クラスでの割合を公表する	遅刻率、遅刻数 服装検査当日クリア率			
		1-②基本的なモラル、規範意識の向上と実践に向けた取り組みを推進する	・登下校指導の徹底 ・歩きスマホをなくす 近隣住民・通学時の苦情をなくす ・交通事故をなくす 交通ルール、マナーの遵守推進	苦情件数 歩きスマホ指導数 交通事故件数			
		2-①生徒の実態を把握し、情報共有、共通理解を図り、有効な指導を展開する	・教育相談体制の充実、学年会レベルの情報共有 ・職員研修の充実	学年会担任報告の情報共有 職員研修の反省			
		2-②校内環境の整備、評価などを含め、組織的な学校安全体制を確立する	・環境美化の徹底。不明事案の撲滅 ・避難訓練の充実	不明事案の件数			
		2-③保護者や関係諸機関との連携強化を図る	・情報発信(生徒指導部通信) ・生指協、警察、サポートセンターとの連携	生徒指導部通信の発行部数 内容のフィードバック			
		3-①現行の規定、ルールの見直しへの準備を行う	・生徒、保護者目線を取り入れたルールづくり ・他校やガイドラインの研究	新ルールの制定			
		3-②積極的な地域社会と係わる取り組みを推進する	・学校周辺等の美化活動 ・自治会等との連携	地域からの評判			
		教育推進部	当事者意識と組織的を高め、生徒の魅力を引き出す行事・活動にする。	生徒主体の生徒会及び委員会活動の充実と連携	体育祭の種目決め、童謡祭の運営、目安箱行事でのカメラ使用等のルール作り	実施後のミーティング 反省用紙 委員会・サミットで意見交換	
各行事と刊行物の充実	体育祭・体育集会、童謡祭 学園通信(生徒の様子をわかりやすく)			実施後のミーティング 反省用紙			
部内分掌組織力向上	縦・横の連携を密にする 要項作成の計画の共有 行事に向けて、計画的に部会を実施			定期的な部会で部内での情報共有がなされているか確認			
中学	中学校という成長段階において、行事・クラブ活動など色々な体験を通して自尊感情を育て高めることを目指す。また、規範意識を育て、挨拶や服装など基本的な事柄を丁寧に守らせ、学習習慣の定着につなげる。	基礎学力の定着と生きた知識を活用する力の育成	日々の課題の提出期限を守らせるだけでなく、内容を充実させるよう指導する。 体験学習・アフタースクールプログラムにより、基礎学力の育成をする。 定期試験や学力推移調査など事前事後指導を丁寧に行う。 言語技術・奈良学・土曜プログラムにより、生きる知識を活用する力を育成する。	未提出ゼロを目標に、個々の生徒に達成感・自尊感情を育てる。 生徒のプレゼンテーションを通して、知識・活動を発表する力をつける。 学力推移調査の数値分析を行う。			
		規範意識の育成	授業規律を定着し、様々な研修や部活動を通して自主自律の精神を育てる。	登下校や授業開始時の挨拶を丁寧に教える。 服装検査等全員が自主的に全てクリア出来る。			
		3年間を通して、成長段階における体験学習を計画し、豊かな人間性を育成	・中1において、宿泊研修にて酪農・農業体験、社会福祉施設交流 ・中2において、職場体験にて各業種の体験と外部講師による講演 ・中3において、高校授業見学・卒業生の体験談などの実施	学校評価アンケートの肯定評価100%を目指す 活動は、ホームページを用いて情報発信する。			